

## 豚の暑熱対策について

豚は汗腺が未発達なため、汗をかいて体温を調節することが出来ないうえ、身体が厚い皮下脂肪で覆われているため、暑さがとても苦手です。暑熱対策をする事は、秋以降の生産性向上に繋がり、年間の成績に大きく関係します。以下、対策方法の一例を紹介します。

### 環境対策

- 直射日光の遮断**：畜舎の立地条件によっては畜舎内に直射日光が差し込み、畜舎内温度の上昇を招きます。カーテン・よしず等の設置、またはアサガオ・ゴーヤなどつる性植物を利用するなどして、日光を遮断しましょう。
- 輻射熱の低減**：太陽熱を天井・屋根・壁が吸収し畜舎内の温度が上昇しないように、断熱材の使用・屋根を白く塗る・散水などを行いましょう。
- 通風・換気**：畜体に風が当たると体感温度が下がります。豚の場合、風速1m/秒で体感温度は4℃低下するという報告もあります。窓を開けて自然換気を行い、併せて換気扇・送風機の使用を行うと効果的です。機器の点検整備を実施し、クモの巣やホコリは掃除し、設置角度を工夫しましょう。また、空気の流れの妨げとなる障害物は片づけましょう。
- 散水・噴霧**：冷水の噴霧は豚体からの体熱放散効果を高めます。なお、畜舎内の湿度が高くなりすぎないように日中のみ行い、換気にも注意が必要です。



### 飼養管理対策

- 新鮮な水の給与**：日中、飲水行動が減少するため、給水用の水道管内の水が熱くなります。午後の給餌期には熱い水をいったん流し、新鮮で冷たい水を十分に飲めるようにしてあげましょう。また、ニップル飲水器に汚れが溜まると、水が飲めずに脱水や食塩中毒に繋がるため、点検と清掃をしましょう。
- 採食量の確保**：飼料採食量の低下を避けるため、飼槽はこまめに掃除して変敗した飼料が残らないようにしましょう。飼料は涼しい時間帯に回数を分けて給与し、発育ステージに応じたビタミン、ミネラルを補給しましょう。

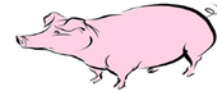
## 肥育豚、母豚、雄豚毎の対策について

豚の適温は22℃と言われ、30℃を超えると肥育豚、母豚、雄豚それぞれに大きな影響を及ぼします。以下はステージ毎の対策について一例を紹介します。

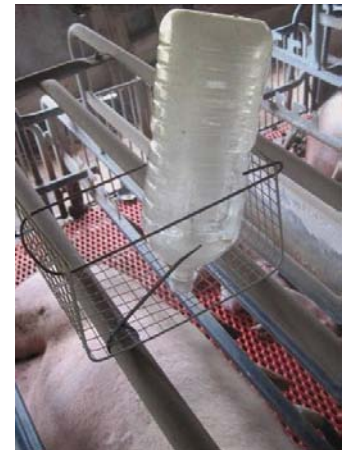
●**肥育豚**：家畜の体温も熱源となり密飼いは豚にストレスとなります。食欲不振による発育遅延などを防止するためにも密飼いは避けましょう。



●**母豚**：飲水量が減少すると泌乳量の低下などにも影響します。給水器の位置に注意して母豚が楽な姿勢で飲めるようにしましょう。ストール内の母豚は風を嫌う場合は後ろに下がって避ければいいですが、前からの風は逃げ場がないのでダクトは後ろから首筋に当てるように工夫しましょう。散水・噴霧対策として水滴を首筋に垂らすドロップクーリングが効果的です。ペットボトルに水を入れ凍らせ、底に小さな穴を開けて吊しておき、首筋へ水滴を垂らす簡易的な方法もあります。



●**雄豚**：暑熱ストレスは乗駕欲の低下や精液性状の悪化などに影響しますので、ミストやドロップクーリングなどにより体温の上昇を防ぐことが大切です。精子の形成までに6週間を要し、その過程でダメージを受けると回復するまでに10~12週を費やすので1シーズンを棒にふる事になります。交配は涼しい時間帯に実施し、頻度は若豚で週に1回、成豚で2回程度に止めて負担を軽減しましょう。また、継続的な精液検査により活力や生存率を把握しましょう。



### 神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

TEL : 0463-58-0152 FAX : 0463-58-5679

<西部出張所> (足柄上合同庁舎第2別館3階)

〒258-0021 足柄上郡開成町吉田島 2489-2

TEL:0465-83-3003 FAX:0465-82-6330